



# 大蔵だより

- 発行日：平成28年3月5日
- 発行：大蔵地域自治協議会  
広報委員会
- 住所：朝来市和田山町宮田186番地3  
大蔵市民会館  
TEL 079-672-5651(ファックス兼用)  
Email ookura186-3@asago-net.jp

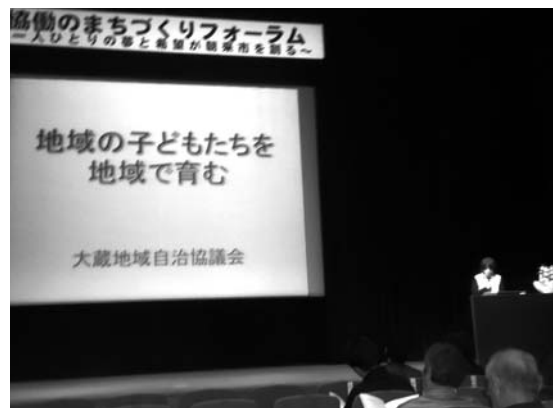
## 「協働のまちづくりフォーラム」で大蔵自治協の取組発表

2月13日(土)あさご・ささゆりホールで、市主催の「協働のまちづくりフォーラム」が開催されました。

このフォーラムは、人口減少、少子高齢化が深刻化するなかで、自分たちのまちは自分たちで創っていかうと、現在取り組んでいる地域自治協議会、市民活動グループ、地域おこし協力隊などの活動事例を発表する場となっています。

今年度は、地域自治協議会の取組事例として、大蔵地域自治協議会が、「地域の子どもたちを地域で育む」のテーマで、大蔵まなび隊の活動と環境学習支援事業の二つの活動を発表しました。

まなび隊は、当初、公民館事業としてスタートしましたが、平成21年度から大蔵自治協事業として、大蔵小学校の児童を対象に活動しており、27年度は26名の児童が



▲大蔵まなび隊と環境学習支援について発表する川見事務員

参加しています。年間20回、土曜日の午前中に、異学年との交流や地域に出向き地域の人とふれあうなかで様々な活動をしています。

環境学習支援では、毎年、こども園と小学校の全学年に対して、作物の植え付けから収穫作業までを指導しています。また、円山川での水棲生物観察会のサポートもしています。

これら活動は、地域の皆さんの協力なくしてはできません。地域の皆さんと子どもたちが一緒に活動することで、世代間交流が図られ、地域活性化につながっていくものです。今後も、地域ぐるみで子どもたちを育む活動を継続していき



▲地域の方とグラウンドゴルフをしています

たいと発表しました。

その他、竹田きづかい推進協議会の取組紹介、地域おこし協力隊の活動報告やAsagoLaboプラン発表会がありました。

AsagoLaboプラン発表では大蔵地域自治協議会所属の高田協力隊員が取り組んでいる鹿肉等食肉処理施設づくりの発表もありました。



▲早朝に狩猟に入る様子を説明する高田協力隊員

◆平成28年度総会のお知らせ 5月22日(日)午後1時30分～

## 生活安全部会

### 阪神淡路大震災の記憶を今再び

2月14日(日)視察研修で淡路の「北淡震災記念公園」にでかけました。

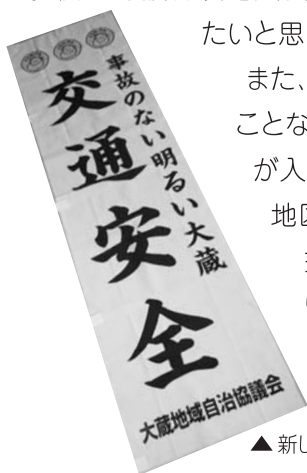
野島断層の大きなずれと映像、パネル、展示物等で当時の地震の恐ろしさを改めて感じました。その中で、大きな地震にも耐えた民家を見学する事が出来ました。わたしたちの住む家も今から耐震工事をするのはむずかしいでしょうが、出来る限り地震等の災害の備えをしておかなければならないと痛感しました。

今後も、「阪神淡路大震災」を風化させないように努めていきたいと思ひます。

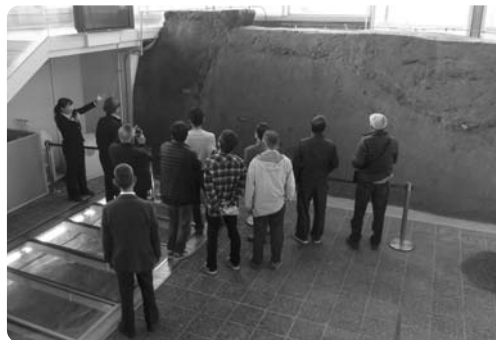
また、交通安全の幟の旗も相当痛みが多くなったことなので60枚新調しました。じろはったんの絵が入った大蔵自治協オリジナルです。もうすぐ各地区に配る予定にしております。

交通安全期間には見れると思ひますので、より一層交通安全に気をつけて頂ければ幸いです。

(文責 平岡 浩人)



▲新しく作製したオリジナル幟



▲野島断層の解説を聞く



▲震災時の揺れを体験するコーナー

## 健康教室「笑おう会」を終えて

## 健康福祉部会

第7回目となる健康福祉部会の「笑おう会」を2月21日(日)に大蔵市民会館で開催しました。当日は、小雨の降る冬空でしたが、およそ100名の老若男女の参加がありました。

第1部では「めざせいきいき生活…コケないように」と題して、馬庭内科医院 馬庭幸二先生の講演を聞きました。寝たきり(要介護)になった原因に多くある、転倒・骨折のお話をスクリーンを使いながら勉強させて頂きました。

続いてなごみの郷施設長 渡邊拓郎先生の指導により、「コケないように…」のストレッチを身体を動かしながら楽しく実践し、最後にコグニサイズに挑戦して和やかな雰囲気を楽しませて頂きました。

第2部では、レクリエーション介護士として活躍中の山下 昇さん(平野区)にお願いして「笑いながら脳を活性化!」をテーマにした、脳トレ「アハ!体験」を行いました。大スクリーンで自治協の活動写真を使った「変化したのはどこ?」のゲームを、山下さんのテンポ良い進行で楽しみました。

続いて、「転倒予防体操・脳トレ体操」を軽快な音楽にのせて全員参加で、身体を動かしました。

「健康」を考える良い体験に、時間があっというまに過ぎていきました。

(文責 後藤 健一)



▲体を動かして、ズンドコ体操を楽しみました。

## 環境部会

# 小学校体験学習 黒豆の収穫と豆かち

12月1日、3・4年生が黒豆の葉取りと刈り取りを行いました。部会員が説明をした後、一人が1本を担当し作業を行いました。早く済ませて2本目にかかる子、隣の人と話しながらのんびりする子、1本しか出来なかった子など、性格がそのまま出る作業風景でした。

その後、葉っぱの茎を使った“ムカデ”作りをしましたが、豆かちよりこちらの方に夢中になって挑戦していました。

いつもなら干して乾燥させてから、豆かち作業を行うのですが、今年は乾燥機で予め乾燥していたので、年内に作業することが出来ました。

この豆を使い、2月24日に蒸しパンを作り指導者も交え、みんなで美味しく頂きました。

(文責 雑賀 忠文)



▲ みんなでやると楽しい豆かち

黒豆蒸しパンを調理中▶



## 生涯学習活動でいきいき生活

## まなびたい部会

いよいよ新年度から生涯学習部会がスタートする予定です。この部会では、様々な趣味・習い事を通して心豊かな生活を送る事を希望される小グループを募集し部会でサポートを行います。

それにさきがけて、すでに「山野草の会」が活動しています。和田山公民館でも各種の講座、教室が開かれています。大蔵市民会館で同様の活動が出来ればとお考えの方、グループがありましたら事務局まで、まずはご連絡下さい。指導者等相談の上準備致します。また活動に対して若干の補助を予算化したと考えています。多くの皆様の応募をお待ちしております。

◆大蔵地域自治協議会 電話 672-5651 (9時～16時) (文責 森下 恒夫)



## 交流と魅力づくり部会

# 考古博特別展「池田古墳のすべて」に参加して

11月28日、交流と魅力づくり部会の案内による兵庫県立考古博物館特別展「王墓の埴輪」-池田古墳のすべて-の展示見学会に参加しました。

池田古墳から出土した水鳥形埴輪、円筒埴輪、家形埴輪等が展示されていて、見事な形とその数の多さに驚かされました。これだけの数の出土品を直接見れることに感動しました。



▲ 池田古墳出土品を見学



▲ 水鳥形埴輪

横尾部会長の詳しい説明を受けて、わが郷土にもこんな貴重な文化財があることを再発見できた古墳学習となりました。「池田古墳に葬られた王はどんな人物か」「王はどこに住んでいたのか」・・・参加者は興味と探求心をそそられ、益々郷土への関心が深まりました。

(参加者 和田 茂樹)

## 「じろはったんウォーク」 開催のお知らせ

日時／5月29日(日) 9:00～12:00

今年は若葉眩しい季節に「じろはったんウォーク」を計画しています。  
5月初旬にチラシを全戸配布しますので、詳しくはチラシをご覧ください。  
たくさんのご参加お待ちしております。



## 大蔵まなび隊員募集!

28年度の大蔵まなび隊員を募集します。  
年間20回土曜日の午前中に活動します。  
<参加費は年間2,000円です>

新学期が始まりましたら、隊員募集のチラシを配布します。  
たくさんの参加  
待っています!



大蔵  
と  
まなび

## わがむら歳時記

寺谷 区



大蔵地区内の各区で大切に守られている行事などを紹介するコーナーです。  
第10回目は寺谷区です。

## 寺谷の祭りの今昔

寺谷 区長 小山 優

区の行事として取り行われていた行事の多くが中止や廃止となり、現在は数少ない行事を実施しています。

昔は4月には33体の観音様をお祭りしている通称観音山の祭りを実施し、餅撒きやくじ引きなどを行い、近隣からも多くの方々がお参りされ賑わっていましたが、昭和40年代の初めに廃止され、現在は観音様周辺や参拝道の草刈りを実施するのみとなりました。

8月には盆踊りやビンゴゲーム等を実施していましたが、踊り手の減少や音頭とりの問題で平成27年度から廃止しました。



▲今は中止となった子供神輿



▲昭和40年代初めの観音山の祭り(餅まき)

10月には秋祭りを実施します。子供神輿は出せなくなりましたが、神社での餅撒きやビンゴゲームが大盛況で、老若男女多くの区民が参拝され、秋の一日を楽しんでいます。

昔からあった行事の多くが廃止され、高齢化の進む中で、残された行事もいつまで継続できるか心配しているところですが、区内の皆が仲良く楽しく過ごせる時間が必要だと思いますので、できるだけ長く続けられればと思います。

## 地域おこし協力隊の活動報告

高田 尚希

協力隊の高田です。去年の4月に大蔵地域に来てから1年が経とうとしています。

2月12日の大安吉日に鹿肉等食肉処理施設の改修作業が始まりました。着工まで辿り着けたのは、大蔵地域の方々に様々な角度からお力添えを頂けたからです。それ無しには場所も見つからない状態でした。改めて深く御礼を申し上げます。そして、施設運営をしっかりとやっていかなければと気を引き締めています。

鹿は地元の資源だと思います。朝来産の鹿を地域資源として地産地消し、尚且つ阪神間などの都市部に提供すべく頑張って参る所存です。どうぞよろしくお願い致します。



▲鹿肉処理施設の改修作業風景